

## お客様からの製品フィードバック

製品名 : KAPATaqEXtra  
 メーカー名 : KAPA BIOSYSTEMS 社  
 アプリケーション : カンキツ類DNAのRAPD※法によるジェノタイピング

※Random Amplified Polymorphic DNA

下記データは、京都大学院農学研究科 中野 道治様のご厚意により掲載させていただきました。

### 実験条件

下記の条件で、PCR用試薬の比較をしました。

#### ●PCR用試薬

T社製品  
 KAPATaqEXtra

#### ●テンプレート

カンキツ類の葉からDNAをCTAB法で抽出し、使用しました。

#### ●PCR組成

組成	終濃度	
Water	5.1 $\mu$ L	
5×KAPA buffer	2	1×
MgCl <sub>2</sub>	1	2.5mM
dNTP	0.3	各0.3mM
プライマー (片側)*	1	1 $\mu$ M
KAPA Taq EXtra	0.1	0.5unit/10 $\mu$ L
DNA(5ng/ $\mu$ L)	0.5	2.5ng/10 $\mu$ L

※プライマー：10～12mer 3種 10  $\mu$ L

#### ●PCRサイクル条件

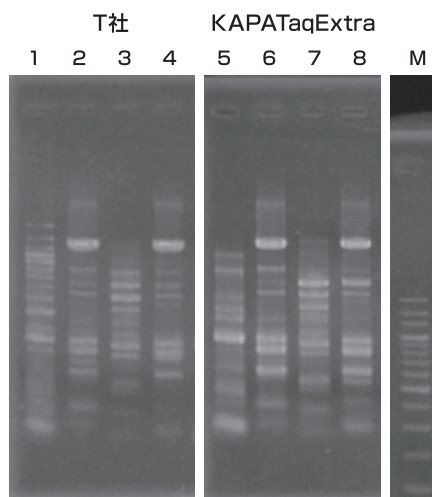
94°C	2min	} ×35サイクル
94°C	30sec	
40°C	15sec	
68°C	30sec	
72°C	3 min	
4°C	Hold	

#### ●使用したPCR装置：PCR9700 (ABI)

#### ●泳動条件

アガロース濃度：2% (TAE)  
 電圧、時間：100V 40min  
 サンプルアプライ量：5  $\mu$ L

### 結果



Lane	Taq	MgCl <sub>2</sub>	プライマー
1	T社製品	Premix	A
2	T社製品	Premix	B
3	T社製品	Premix	C
4	T社製品	Premix	B+C(Each 0.5uL)
5	KAPA Taq	2.5mM	A
6	KAPA Taq	2.5mM	B
7	KAPA Taq	2.5mM	C
8	KAPA Taq	2.5mM	B+C(Each 0.5uL)

KAPATaqEXtraにおいても多数のバンドが得られ、本酵素がRAPD反応に使用可能であることが示されました。

#### <お客様のコメント>

KAPATaqEXtraは、植物 (カンキツ) DNAを用いたRAPD法に問題なく使用でき、T社の代替えになると考えられた。